

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700182		
法人名	有限会社ライフケア		
事業所名	しきぶの里		
所在地	佐賀県嬉野市塩田町大字谷所甲2385-1		
自己評価作成日	平成31年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年3月15日	外部評価確定日	平成31年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた穏やかな環境。春には、小鳥のさえずりが聞こえ、筍、フキ、李等の山の恵みを頂き、四季折々の花や紅葉によりホームに居ながらにして季節の移り変わりを感じる事ができる。バス停も近くにあり交通の便も良い。開放的で日当たりの良い食堂兼居間にみんなで集い、一人ひとりがゆっくりと思いいに過ごして頂ける環境作りに努め、入居者様が健康的で一日一回でも大きな声で笑え、リラックスできる家庭的な雰囲気づくりに努めています。職員が、笑顔でストレスを溜めずに、楽しめる職場づくりを心掛ける事が、入居者様の笑顔につながると考え実践しています。

施設の基本方針である「個々の入居者様の自己選択」「自己決定」を促し、見守りながら各能力に応じた自立支援に力を入れています。また、地域住民の皆様との交流を図りながら、開放的なグループホーム運営に努めています。

施設の理念である『みんな笑顔でハッピーに』を実践する為、職員一同努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ケアの原点を端的に表した理念が、ごく自然に職員に浸透している事業所である。介護する側、される側ではなく、家族のような暮らしが窺える。朝の集いの問い掛けでは、歳を重ねる毎に答えも単調になっているが、色々な選択肢を並べることで意欲も引き出そうとしている。また職員のチームワークの良さも特長であり、アドバイスとして互いに言い合える関係は貴重である。利用者に穏やかな表情と笑顔が見られることは家族に安心感を与え、事業所への信頼も生んでいる。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフだけではなく、入居者様や来所されるご家族様や地域の方々にも見える場所に掲示し、常に理念を意識してケアを実践するよう心掛けている。	開設時に「みんな笑顔でハッピーに」という理念を掲げ、現在もその想いを受け継いでいる。目に付きやすい場所への掲示や、職員会議で話題にする事で意識付けを図っている。「一日に一回は笑顔になってもらおう」「笑顔を引き出そう」という姿勢は、リビングで和気あいあいと談笑する様子にも表れている。日々のケアの中で、職員には当たり前的事として浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より地域自治会に入っており、区費を納め、回覧板や行政の配布物等により日常的に地域と繋がりを持ちながら地域の中で生活している。 その他、スタッフが地域コミュニティー委員として役割を担い地域活動に参加している。 また、地域コミュニティーより、春、秋に花のプランターを設置して頂き、季節の移り変わりを楽しませて頂いている。	自治会に加入しており、回覧板や地区放送、また近隣住民との挨拶や立ち話から細かい情報も得られている。地域の清掃活動等には積極的に協力する意思があり、当日が難しい時には前日にでも自主的な活動を行っている。事業所の存在は地域に認知されており、ボランティア訪問では近隣住民にも観覧の声掛けを行っている。一人暮らしの高齢者も増える中、災害時には避難先として活用してもらう事を普段から伝えている。地域の祭り等への参加は出来ていないが、今後は回覧板を活用した情報発信も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議に地域住民代表として区長、民生委員、老人会代表等の方々に参加して頂いており、会議の場において色々な取り組みについて報告、伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では2か月間の行事報告、事故報告、入居者様の現状報告等を行う。会議において、施設の現状を知って頂き、委員の皆様より多方面からのご意見を頂きながら、サービスの向上に努めている。又、欠席された委員の方に対しては、後日資料、会議録を送付している。	会議は事業所からの報告だけではなく、双方向な意見交換の場となっている。近年の自然災害多発が話題となり、地区の防災にまで広がって参考になった件もある。行政側は代理でも出席者を出し、家族には2年を目途にお願いしている。定期的な外部からの訪問を、普段の事業所を知ってもらう機会として活かそうとしている。会議後には昼食を用意し、一緒に食事をしながらリラックスした中で率直な意見も出してもらえよう努めている。メンバーは利用者の顔を覚え、変化に気付くこともある。またメンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もみられる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの方に加わって頂いている。地域における福祉活動においてもアドバイスを頂いている。 また、定期的に行われている地域ケア会議にも出来る限り出席するように努めている。 その他、手続きや法改正に伴う疑問や不明な点は広域介護保険事業所に問い合わせ、相談しアドバイスを頂いている。	運営推進会議で顔を合わせる以外でも、状況に応じて担当部署への問い合わせ等は行っている。電話を掛けたり、直接出向くこともあるが、実直に対応してもらえる関係は築いている。また半年毎に介護相談員の訪問もあり、昼食も一緒にとりながら3時間ほどを滞在している。利用者の想いを聞き取り、事業所との橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓は原則夜間のみ施錠対応している。日中は入居者の皆様に来るだけ自由に活動して頂けるよう声かけ・見守りながら配慮している。 また、毎月の職員会議においても身体拘束について話し、職員の身体拘束をしないケアについての理解を深めるよう努めているとともに、外部研修会への参加や学習会を実施し、身体拘束をしないケアの実践を心掛けている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は研修会等により身体拘束の内容とその弊害も理解している。止むを得ず実施する場合には、家族の承諾等を理由に正当化することなく、止めるための工夫や話し合いをする事としている。日中は玄関の施錠もなく、居室のサッシ戸からも自由に外へ出られるため、段差による転倒などにも配慮しながら目配りを欠かさず、外へ向かう利用者があれば一緒に歩き、行動を抑えることもない。仮に不適切なケアがあれば、本人だけではなく全体の事として問題提起するとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待行為はないが、言葉により相手を傷つける事が無いよう職員間で注意を払い、虐待防止に努めるとともに、外部研修会に参加したり、学習会を開いている。また、毎月の職員会議において、みんなで話し合い防止に努めている。 玄関ホールには虐待防止の指針を掲示し、常にスタッフが意識する環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回以上権利擁護についての学習会を行い全スタッフでの理解を深める努力をしている。現在、成年後見制度を活用されている入居者の方もいらっしゃる。また、入居者様の生活自立支援を行ううえでは、各個人の能力に応じ残存機能を引き出し、少しでも自立できるよう支援する事に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定後、契約書、重要事項説明書に基づき説明し、納得を頂いたうえで同意、署名、捺印を頂いている。 また、不安な点や疑問点に関しては、再度説明し理解を得ている。改定の際には、文書にて説明を行うとともに、問い合わせに対しては、個別に説明対応を行う事で理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している他、面会時等に個別にご要望やご意見について声かけをするよう努めている。又、外部評価時に行われるご家族のアンケートを活用させて頂き、ご家族より出された要望やご意見については、職員会議にて検討するとともに、運営推進会議にて報告し、意見を伺い今後の運営に反映できるよう努めている。	毎月の利用料送付時には利用者毎に編集された家族だよりも同封している。担当職員による近況が記され、スナップ写真では表情を垣間見る事ができ家族にも好評である。来所時や、電話であっても家族と会話ができる機会は大切にしており、世間話等も交えながら何でも話してもらえるよう努めている。事業所では、良い事も気になる事も利用者にとっての情報は正直に伝えることを旨とし、その結果、家族との信頼関係も生まれている。また訪れる家族にも高齢化がみられ、健康面に配慮した声掛けも行っている。事業所の行事への参加を促し、家族会の再開も検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催される職員会議には代表者をはじめ職員全員が出席している。職員からの意見・要望に関しても代表者も出席している事からすぐに回答を頂き、早期の解決が図られている。又、会議では言えなかった事も、管理者や主任から代表者等に要望する事ができる体制が出来ている。	職員会議は、宿直明けで参加出来るよう8時半から約一時間、カンファレンスや勉強会、また代表者の同席があることで現場の声も自由に発言している。職員は司会や書記を順番で担当し、レジュメ作成や予め案件を募ることも含め、各々が担っている。また管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、ストレスを溜めずに楽しめる職場作りを心掛けている。そのためには自ら率先して動くことを課し、定時での帰宅も指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給、研修会参加の助成、超過勤務手当の支給等がなされている他、スタッフの配置に応じ無理のない程度に有給休暇を取得できるようにしている。また、代表者は、管理者や職員からの要望事項を聞き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、職員のキャリアに見合った研修会参加を薦めている。研修会参加の諸経費の負担や参加しやすい条件整備に努めている。施設内研修は、伝達講習等の形をとりながら月に1回担当者を決め実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	嬉野・鹿島・太良地区グループホーム交流会が毎月開催され、参加している。(会員グループホーム 10か所)他施設の情報や取り組みに付いて意見を交換する場となっており、参加した研修会の内容については、参加者が職員会議で報告し、情報共有をしながらサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人の面談を行い、ご本人が困っていることや不安なこと、要望等を伺い安心を確保するための関係作りに努めている。また、入居前に希望があれば、ご本人に見学に来て頂き、皆さんと一緒に食事をしたり、レクリエーションに参加して頂き、ホームでの生活を体験して頂く事で、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面談を行い、ご家族の疑問・不安・要望等に耳を傾けながら、施設として「出来ること」、「出来ない事」を理解して頂けるよう努めている。入居後は、面会時や電話連絡、家族だよりにてご本人の生活状況等の情報を提供し、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各医療機関や地域包括支援センター及び担当ケアマネジャーや外部サービスとの連携を図りながら必要な支援を見極め、必要な方には、訪問歯科診療や病院リハビリ等にて対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の集いを毎日開き、入居者様の意向に沿った一日の過ごし方をお手伝いできるように努めている。これまでの生活歴をふまえ、入居者各自がやりたい事、出来ることを実践して頂けるよう努めている。料理等職員が教えてもらいながら一緒に行う事も多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加依頼、自宅への外泊・外出支援の協力、日常的面会を通してご家族間の絆を再確認して頂きながら施設での生活状況を伝え、依頼する事で一人の入居者をみんな(家族、事業所、医療機関等)で支えているという意識を持っていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出ドライブの際、各入居者の馴染みの場所に出かけるよう努めている。また、個々の希望により行きつけの美容院へ行ったり、自宅訪問の支援を行っている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネジャー、また利用していたサービス事業所や病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援を計画し実施している。行きつけの美容院へ通い続けることや自由な電話の取次ぎ、盆正月の帰宅や法事への出席など、家族の協力も得ながら関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士がお互い自然と寄り添い談笑されている。職員は、入居者の相互関係を十分に把握し、声かけ・介入する事で一人が孤立する事のないよう心掛けている。時には食事テーブルの席を変更し、より良い対人関係が築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養を必要として退去された方に対して、随時面会に出かける事で関係を断ち切らない取組みを心掛けている。面会時や街中でご家族に出会った際にも声を掛けさせていただき、近況を伺ったり、相談にのる等ご家族の思いを汲みとりながらの支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎朝行っている朝の集いにおいて「食べたい物」「行きたい所」等入居者皆さんの希望を尋ね記録している。出来ることは即日実行し、無理な場合は後日計画し実行している。最近、希望を述べられる事が少なくなっている為、スタッフがいくつかの提案を行い、それに対する賛否を問う事も多くなっている。	朝の集いは利用者の希望や想いを汲み取る場ではあるが、職員には特別なケアを行っている意識はない。エプロンを片手に起きてくる利用者もあり、ごく普通の会話をしているひとつの家族である。利用者とは接する時のスキンシップや笑顔は自然に身についた行為であり、発語の少ない利用者であっても解きほぐしている。聞き取った事は連絡ノートや口頭で伝え合い共有を図っている。そこからケアプランへ反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活習慣、得意分野の活動等情報収集し、職員が情報共有出来るようフェースシートとして残している。また、入居後明らかになった情報に関してもその都度フェースシートに記載し残している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事活動(掃除・料理・洗濯物たたみ等)や下肢筋力低下予防のための歩行訓練や下肢の筋力アップ運動等各人の状態。状況に合わせ実施している。心身の状況把握は、受診記録簿や援助記録にて共有出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞くとともに、主治医や訪問歯科医等必要な関係者から意見を聞き、計画担当者を中心に職員で検討し現状に即した計画立案に努めている。また、モニタリングは定期的に行い次のケアプランに活かせるようにしている。その他、カンファレンスノートを活用している。	見直しの設定期間は様々である。入居して間もない頃は毎月、その後、3か月毎、6か月毎と移るが、その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。利用者の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。当外部評価のアンケートでは回答者全てが「分かりやすく説明を受け、一緒に話し合っている」と答えている。また記録簿の書き方など敢えて検討課題とし具体的に取り組んだ結果、利用者の変化にも気づきやすく早期対応に繋がっている。ケアマネジャーと担当職員が中心となる毎月のモニタリングでも日々の記録簿が役に立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、施設サービス計画の長期目標、短期目標に沿って記録している。日々の記録はサービス計画の見直しの材料として活用している。その他必要事項は、カンファレンスで問題提起したり、計画担当者に申し出るとともに職員会議の場で話し合いを行いケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科診療等入居者のニーズに合わせて対応している。事業所での生活をマンネリ化させないためにも、外出レクリエーションやボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ ・アコーディオン(毎月) 演奏に合わせ歌や体操、その他入居者の得意とする歌や特技を披露して頂き、本人の力を発揮する機会を設けている。 ・大正琴・詩舞・剣舞等 年に数回ボランティアの方が来所されみんな楽しんでる		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望で決めている。特に希望がない場合は、協力医療機関にかかりつけ医をお願いしている。家族が受診の付添いができない場合は、職員が付添い、介助している。	元々、協力医の患者だった方や、入居後に協力医への変更を希望した方もある。かかりつけ医の選択はあくまでも本人や家族の希望が最優先であり、皮膚科など他科受診の際も同様である。往診がないため定期受診でも出向くことになるが、現状では職員の付き添いが殆どである。変化がなければ家族への結果報告は後日の来所時などに伝えている。また家族が付き添う場合にはメモ等の持参で日常の様子を伝えてもらい、スムーズな診療を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々の入居者との関わりの中で異常の早期発見を心掛け、随時看護資格を持つ職員に報告・相談を行い適切に対処している。その結果、主治医への報告・連絡・相談もスムーズにできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、速やかにご家族同伴にて主治医面談を依頼し、治療期間や治療方針の説明を受け、今後の施設利用について検討している。 入院先の医療機関とは、管理者または計画担当者が、病棟や地域連携室と情報交換をしながら早期の退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の施設方針や手順については準備している。現在施設で対応出来ること出来ない事をご家族に説明し、契約を交わす段階から終末期についても意向を聴取している。また、ご家族の気持ちも時間の経過と共に変化されるため、面会の際や状態の変化があった際に随時意向を確認し、新たに要望が出てこないか確認している。	開設して14年目、過去には看取りの経験もあるが近年は行っていない。今後、その希望があれば応えていけるよう、体制や職員の力量等も考慮しながら整えていきたいと考えている。入居契約時には指針の説明を行い、その時点での意向を選択してもらっている。月日の経過と共に体調や容態の変化があり、当初の選択から揺れ動く気持ちも踏まえ、何度でも話し合いを重ねる事としている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内、施設外研修会にて急変・救急時の対応についても知識を深めている。緊急時のマニュアルも作成し有効活用しながら全スタッフがいつでも対応できるよう技術の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上日中・夜間各想定にて通報・消火・避難訓練を実施している。 今年度、災害時の訓練に関しては、座学として、避難手順の確認や食料の備蓄等について学んだ	訓練は昼間帯に行い、夜間は想定のみである。利用者も一緒に避難を体験しており、職員は火災通報装置や消火器の使い方も承知している。反省点等があれば全員がいるその時に話し合い改善している。非常食や水の備蓄もあり、前回の外部評価では災害対策マニュアルの作成を目標のひとつに挙げている。未達成事項や、職員のみでの避難誘導の限界も理解しており、課題をひとつずつ着実にクリアすべく努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である『みんな笑顔でハッピーに』を念頭に置いた言葉かけや対応を心掛けている。 また、職員間で互いに気づいた時には注意し合い、職員会議の場でも話し合いを行い適切な対応を心掛けている。	トイレや入浴の介助は最も配慮を要する場面だが、ドアやカーテンは閉める、必ずノックをする等々、些細と思われる事をきちんと守っている。接遇の研修もある。互いに注意し合える雰囲気は職員間のチームワークの良さの表れでもある。また個人情報への取扱いに対しても理解しており、業務上であっても声の大きさに注意を払ったり、家族だより等への氏名や写真掲載、居室の名札に至るまで入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日朝の集いを開き「今日は何をして過ごしましょう」「食べたい物がありますか」「どこか行きたいところはないですか」と皆さんに尋ね、各人が思いや希望を表す事ができる場面を作る事で自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の集いの中で「今日は何をして過ごしましょう」と尋ねている。趣味やドライブ等は可能な限り希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服が着れるよう声かけを行っている。毎朝の整容に関しては声かけを行い、髪をとかす等の支援も行っている。時には、化粧品やマニキュアをしたりおしゃれを楽しんでいる。男性に対しては気軽に髭剃りが出来るよう手の届くところに電気カミソリや鏡を準備しておき好きな時に髭剃りが出来るよう環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の集いの場で、その日の献立を紹介した後、「食べたい物」を尋ねる。材料があれば献立を変更し希望の食べ物を提供するように努めている。 食事の準備は女性を中心に参加され、野菜の皮むきやカット、味見、盛り付け等される。食後は、食器洗いやおぼん拭き、テーブル拭き等を手伝われる。 食物アレルギーを持つ方もいらっしゃる為、注意している。	献立は当番の職員が一週間分を考えているが、利用者の希望によっては自由に変更している。栄養価は計っていないが毎月の体重測定を目安としている。好き嫌いには調理法などを変える工夫が功を奏しており、アレルギー有無には別な配慮もある。食が細い方には形状を変えたり、声を掛けながら、出来るだけ自分で口へ運んでもらえるよう支援している。職員も一緒に同じ食事をしながら、食材や味付けの会話が聞かれ和やかな雰囲気である。職員がお代わりを尋ね、答える利用者の様子は家庭で見られる一場面である。利用者にとってイベントである誕生日も当日に祝い、ケーキも用意され、家族が訪れることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜の栄養バランスを考えながら献立を考え提供する事を心掛けている。毎月初めに体重測定を実施するほか、毎食各人の食事摂取量をチェックし、食事の摂取状況の把握に努めている。また、各人の体調や嚥下・咀嚼の状況に合わせ主食を粥に変更したり、刻み食にて提供したり、水分にトロミをつけ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の歯磨き・義歯洗浄の声かけ・見守り・介助を各人に合わせ行っている。義歯使用者の義歯については、夜間義歯洗浄剤を使用している。その他、訪問歯科診療にて定期的に口腔ケアを行って頂いている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声かけにてトイレ誘導介助をしている他、個々の行動・習慣・尿意・便意の訴えに合わせて誘導介助している。夜間もリハビリパンツや尿取りパットを併用し、本人の訴えや活動に合わせて居室のトイレや共用トイレ(車椅子対応)に誘導し、トイレでの排泄や排泄自立に向けた支援に努めている。	排泄に関して自立している利用者も数名いるが、任せたままでなく、さりげない見守りを行っている。健康管理の目安ともなる排便に関しては特に注意を払っている。各居室にトイレと洗面台の設置があることで、自室を使用する利用者も多い。チェック表による把握で適切な誘導等が支援され、入居後に改善した例もある。オムツ類の使用枚数が減る事は自己負担の軽減にも繋がっている。トイレ内の手摺りは掴み易い位置に取り付けてあり自立を助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や歩行訓練等適度な運動を行うとともに、水分補給や野菜を多く取り入れた食事の提供、毎朝食事のヨーグルトの提供等にて便秘の予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日中に行い、曜日は決めていない。一日に3～4人の方がゆっくりと入浴していただけるよう努めている。希望があれば毎日でも入浴できる。体調によっては、入浴を中止し、足浴や清拭で支援する事もある。入浴には、職員の声かけ・見守りが必要である。	入浴は週3回ほどを目途にしているが、風呂の準備は毎日できているため希望があれば対応は可能である。ひとりずつ寛いでもらい、冬至の柚子湯など季節感を取り入れることもある。シャンプーやソープ類は利用者が好みの物を用意し、入浴を嫌がる方にはタイミングや日にちをずらす工夫もある。状況に応じた足浴や清拭、また入浴しない日でも出来るだけの肌着下着の交換など、清潔保持にも努めている。浴室に暖房設備があることは冬場のヒートショック対策となり、シャワーチェア等を活用しながら安全にも配慮している。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守りの支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は、本人の状況に合わせて行っている。夜間不眠時には、無理に休んで頂くようなことはせず、ホールや居室にてゆっくりと過ごして頂き、本人のタイミングで気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別につづりにし、薬の管理は職員が行っている。薬の変更があった場合は特に気をつけ、服薬後の状態を観察し、変化のある場合には速やかに主治医に報告・相談している。また、調剤薬局による管理指導も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自が出来ること(家事等)を手伝って頂き、趣味や特技を發揮し、日々を楽しみながら過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として外出計画を立てたり、朝の集いで「行きたい所」の希望を聞いたり、新聞等で情報を得てドライブや故郷巡り、外食等を行っている。また、天気の良い日には、外庭で朝の集いをしたり、散歩を行っている。盆や彼岸の墓参り、正月の外出・外泊等も、ご家族・職員協力し本人の思いに沿った形で実施している。ご家族と日帰りのバスツアーに参加された方もいる。	利用者への問い掛けや、日頃の関わりの中で外出への想いを把握するよう努めている。話題を振れば興味を示すこともあり、性格に合わせて誘い方も工夫している。天候や体調をみながら当日に決まり、出掛けることもある。時には受診の帰り道に遠回りをすることもある。職員は日差しを浴びるメリットや五感の刺激も理解しており、外庭での散歩は日常的に支援している。車椅子使用であっても、専用車両はないが皆で出掛けている。殆ど外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自預り金があり、必要に応じ物品の代理購入をしたり、外出時に好きなものを買って頂いたりしている。個別で現金出納帳を作成しており、毎月ご家族に収支報告を行っている。また、別に小遣い銭を自己管理している方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を1名の方が所有し、家族と自由に交信している。その他、施設の電話でご家族からの電話を取り次いだり、本人の希望でご家族に電話をする等の支援を行っている。また、贈り物お礼には、電話にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の悪臭防止の為に換気に気をつけている他、室温や湿度管理にも気をつけている。廊下の照明はセンサーにより自動点灯するようになっており、安全確保に努めている。室内には、季節の花を飾ったり、壁面に季節の飾りつけや入居者の作品や行事写真等を掲示するなどの工夫をしている。	利用者が一日の殆どを過ごすリビング兼食堂は台所から調理の音や匂いがして食事時の雰囲気伝わってくる。利用者の動線上に通行を妨げる物もない。日当たりが良く(夏場はヨシズやグリーンカーテンで対応)、時折サッシ戸を開け換気にも配慮している。これは各居室も同様である。県道脇ではあるが車の騒音は殆ど気にならない。共用トイレや浴室はきれいに掃除され、嫌な臭気もない。利用者が手を触れる箇所の消毒は年間を通しこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横に3人掛けソファを1台、ホールに1人掛けソファを4台設置している。気の合ったもの同士ソファに座り話をしたり、日向ぼっこしたり、昼寝をしたりして思い思いに過ごす事のできる場所となっている。また、一人で過ごしたい時には、居室にて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビ等本人の好みの物や使い慣れたものを持参され各居室に設置されている。室内は、ご家族の写真やご自分で作られたクラフト作品等が飾られ、ご家族・本人の思いをくみ居心地良く過ごせるよう配慮している。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。使い慣れた物や家族の写真等を飾り、居心地よく落ち着いて過ごしてもらえよう支援している。各居室にクローゼットがあることで整理整頓もしやすく、掃除を手伝う利用者もある。各々の洗濯物は加湿効果を狙った室内干しであり、出来る事をやってもらう生活リハビリのひとつでもある。家庭と同じように天気の良い日には寝具を干し、衣替えの時期は担当職員が心掛けて支援している。家族の希望があれば居室への宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のない限りは、洗濯物スタンドを各部屋に設置している。できる方は、自分で洗濯物を干したり、洗濯物たたみをして頂き、本人の使いやすいように収納している。クローゼット内は、衣類が分かりやすく収納している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない